



憲法が輝く
兵庫県政を
つくる会

Eメール : Info@kenpo-kensei.com
Twitter・HP : 「兵庫・憲法県政の会」
Twitter : 「津川ともひさ@7月兵庫県を変える！」
Facebook : 「津川ともひさ」 【部内資料】



津川ともひさを2000人集める「550万県民にやさしい兵庫」を

予想される知事選挙告示日(6月22日)まで、4カ月余となりました。

町長、組合長などと懇談

津川ともひさ代表幹事は、各自治体、各種県団体を精力的に訪問し、懇談を行っていきます。

1月以降、稲美町町長、太子町町長、J A丹波ひかみ農協組合長・J A南あわじ農協の組合長、仮屋漁協の参事らと懇談。県弁護士会、行政書士会、J A兵庫中央、県医師会、県漁連などを訪問しました。

一方、「神戸新聞」2月9日付朝刊は、「井戸知事5選立候補の公算」と報じています。加入団体も地域の会も活動の量とテンポを引き上げていきましょう。

「学者の会」と懇談

「憲法県政の会」は1月24日、「安保関連法に反対する学者の会」と懇談を行いました。学者の会から4人が参加。津川代表幹事が決意と政策の概要を説明し、意見交換を行いました。

参加者からは、高卒までの医療費無料化や無償奨学金など教育と地方政治の課題や原発問題での争点化の可能性、大学運営への自治体首長のかわりなど、今後の政策検討につながる話題が話されました。県政転換に向けての地域での市民共同への協力もお願いしました。



市民団体と懇談

2月1日には、「平和憲法を未来に、原発事故避難者応援」などをテーマに、活動している団体「未来の社会を考える仲間たち」の方々と懇談し、「井戸県政をどう評価するか」「三宮再開発」などについて、津川代表幹事らと意見交換を行いました。

また、「2018年度からの国保都道府県化による自治体の独自減免制度がなくなる」「保育園には入れないという友人が多い」などの要望も出され、今後も懇談し

《2000人集会に向けた「憲法県政の会」の予定》

リリーススピーチ「私たちの願いと県政」

【日程】3月4日(土) 14時
【会場】神戸市勤労会館2階ホール

「第13回定期総会」

【日程】3月29日(水) 18時30分
【会場】兵庫県民会館9階けんみんホール

「第2次全県一斉宣伝」

【日程】3月21日(火) 17時~18時
【場所】1月の場所を基本に検討中

「4月21日2000人集会」(仮称)

【日程】4月21日(金) 19時
【会場】神戸文化大ホール

「自然災害からの復興とは」。岩手県陸前高田市の戸羽太市長の講演に、「うんうん、そうだそう」と何度も思いました。▼多忙な日程をやり繰りして1月17日、神戸市内での阪神・淡路大震災22年集会に出席した戸羽市長。甚大な被害へのみずからの責任にも言及しながら、「町のかたちや新しい市役所ができたから復興するわけじゃない。住んでいる一人ひとりがどれだけ笑顔になれるか、元氣になれるか、前をむけるか、それが復興ではないでしょうか」「人は生きている以上、幸せになる権利がある」と語りました▼神戸にきて、借り上げ復興公営住宅から被災者らが20年を区切りに行政によって退去を迫られているという話を聞き、「市民が困っているのに、切り捨てるとすれば、政治ではないですね。原点に返って考えるべきだと思えます」とのべました▼そして、20年もたつて被災者を裁判の被告席に立たせる、こんな重要な問題が全国的なニュースや話題とならない現状にも疑問ををいし、同じ被災地の首長として、国にも訴えていきたいとのべました。「復興とは」「政治の役割とは何か」、たいへん示唆に富むお話をした▼戸羽市長の講演後、閉会挨拶した畦布和隆氏(復興県民会議代表委員)は、「22年前の阪神・淡路大震災のときに、戸羽さんのような市長がいて、私たちと心あわせて復興にとりくんでいたら、阪神・淡路の復興もその後の日本の災害の復興も、大きなかたちで変わっていたと思います」と結びました。住民に心を通わせる県知事を何として誕生させたいと痛感しました。(M)

のり(憲)のり(法)コラム

地域の会の動き広がる

宣伝と対話の中心的担い手である「地域の会」が会議を開き、決起集会、総会の開催、独自の宣伝行動も計画するなど動きが広がっています。

すべての地域の会が、3月末までに総会(会議)を持ち、活動を具体化しましょう。

2月も宣伝、3月に決起集会

(三田の会)

「三田の会」は2月4日、会議を開き、津川代表幹事の「ビデオ

レター」を視聴し、知事選挙勝利へ出足早く活動しようとする当面の活動を確認しました。

宣伝行動は1月に続き、2月も1回、3月は2回を計画。3月26日には、決起集会を開き活動の担い手を広げていきます。

3月に総会、6つの行動提起

(姫路の会)

「姫路の会」は、総会を3月31日に開催することを決めるとともに、会報1号を発行し、各団体の

構成員に「いま、みんなですること」として、次の6点を呼びかけています。

- 推薦決議や会の担当者を決める
- 活動方針や目標を決める
- 活動計画を姫路の会へ知らせる
- 小組やグループを作り、取り組みや申し合わせを決める
- 提案・意見をお知らせください
- 会報の送り先、メール先をお知らせください

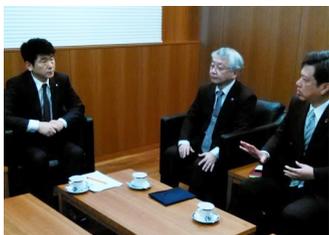
(行動提起は要約しました
憲法改正の会)



【津川ともひさ@7月兵庫県を変える!】

つばやき (ツイート) 連日のツイートから、一部、紹介します

首長や業界との懇談



【太子町長】太子町の服部町長と懇談しました。私が高校教員出身ということで配慮いただき教育問題を皮きりに突っ込んだお話をいただきました。子どもの医療費無料化には踏み切ったがさらにと考えるが「お金がない」。そんな思いはこの市町も同じではないかなどなど。写真のポジションまで気遣って下さいました (2月13日付)

【仮屋漁協】淡路の仮屋漁協で教えてもらったこと。いま大阪湾の海底は、諸河川から砂が自然供給されにくいので堅くなりイカナゴが「夏眠」できない。1歳の成魚は5~12月、砂に潜り夏眠し目覚めると産卵期。イカナゴのためのベッド製造マシンが下の画像。仮屋漁協のみなさんがそのパイオニア。漁師さん、海を耕す! (2月6日付)

みんなでツイッターやフェイスブックをはじめ、リツイートやシェアをしていきましょう

【丹波ひかみ農協組合長】



小豆生産にはずみをつけようと「ゼンザイの町・丹波」を売り出し中。作り手も増えているが実った後の「豆のより分け」が大変。丹波ひかみ農協では一台380万円の選別機を2台購入して生産農家から喜ばれている。「これに県や市の補助があれば」は組合長さんの要望。懇談後に実物を見ました (1月20日付)

総会を開催(宝塚の会)

「宝塚の会」は2月11日午後、第3回総会を開き50人が参加しました。

総会では、「1万人のサポーターを組織し、5万人と対話、2万5千票の得票を獲得する」ために、①団体・個人への加入を呼びかける、②幹事会の強化、③ニュースを構成員まで届ける、④HP・ツイッターへの登録・拡散、⑤宣伝活動の具体化、⑥学習会、小集会の計画と「兵庫・憲法改正の会」4月21日大集会の成功を、などを確認しました。

総会に先立ち、田中耕太郎代表幹事が講演を行い、津川ともひさ代表幹事があいさつしました。

津川代表幹事、生まれ故郷の淡路を訪問し懇談・宣伝

津川ともひさ代表幹事は1月15日、淡路島を訪問し、懇談、宣伝を行いました。



懇談には、年金者組合、民商、新婦人、共産党などから12人が参加。「農業、漁業を元気にする政策の打ち出しを」「淡路は自然災害が多いので、その対策を政策に」などの要望が出されました。また、「共闘の広がりを感じる、新しい時代になった」「県が変われば暮らしが変わることを訴えよう」「地方自治体は住民の暮らしを豊かにする役割を果たして

第1次全県一斉宣伝 20カ所に239人が参加



1月20日の全県一斉宣伝は20カ所で取り組まれ、90団体239人が参加しました。

津川ともひさ代表幹事は、JR兵庫駅前と神戸大丸前の2カ所の宣伝に参加。JR兵庫駅前では20人が行動し、マイクで訴え、会報を配布するとともに、「生活をささえる県政」「平和にこだわる県政」などのプラスターを持ち、市民にアピールしました。

JR本竜野駅前では、兄が防衛大にいる女子大生が「心配している」と戦争法廃止の署名をしました。

いるが、一方では数の力で押し切られる。トップを取る、これ程力強いことはない、勝てる展望はある」などの抱負も話されました。これを受け、津川代表幹事は、「今日お聞きした要望を持ち帰り、政策に反映させていきたい。そのためにもご協力をお願いしたい」と発言しました。

懇談後、「農林水産祭」が開かれる、いざなぎ神宮前に移動し、20人で宣伝・対話を行いました。島内各地からの参加者でにぎわう中、「会報No.2」を配りながら、多くの地元住民と対話し、激励を受けました。